

GAP通信

第6号

2019年2月21日発行

特集 GAP先進地「JAおおいた」視察



JAおおいたはGAPの先進地

JAおおいたでは、平成30年2月に「柑橘」、「ミツバ」、「イチゴ」、「大葉」、「白ネギ」、「七草」の13品目、78ほ場でGAPの団体認証を取得しています。

農薬の不適正使用が問題となったことをきっかけに、GAPの取り組みを始め、認証取得にむけて様々な活動を行いました。

**高知県では2020年までに
全域でGAPの実施を目指す**

高知県では、2020年のオリンピック・パラリンピックにむけて、安全な食材が提供できるように、「高知県版GAP」を県内の全産地で実践することを目標としています。

そこで、今後の活動の参考とするため、平成30年11月に高知県農協営農指導員会はJAおおいたを視察し、普及所からは掛水が同行しました。

今回のGAP通信では、視察で勉強してきた内容をお伝えします。

私が視察してきました。





改善のコツ

「100点満点を目指さない」

チェックシートの項目全てを○にする必要はありません。農薬の管理など、重要な項目から改善し、徐々に○の数を増やしましょう。

- 〈写真説明〉
- ① ほ場内にタバコの吸い殻や農薬の空き容器などが放置されていない
 - ② 出荷用ダンボールにJGAP認証取得マークが記載されている
 - ③ 段ボール(資材)が直接床に置かれていない
 - ④ 農薬がこぼれた場合に備えて、保管庫に薬用砂を常備している
 - ⑤ 肥料は置き場を決め、種類毎に分けている
 - ⑥ 機械の説明書は置き場を決めて保管し、必要な時に見ることができる
 - ⑦ 農薬散布の際には撥水性の服を着用し、体に農薬が付着しない対策をしている

諦めずに続けることが大きな成果につながる

GAPを始めて大変だったこと

J A おおいたで多かった意見は、「審査費用がかかる」、「記帳が多い」、「倉庫・ほ場の整理整頓」でした。特に、認証取得には多くの書類が必要となるため、苦労したそうです。

それでもGAPに取り組んでよかった！

GAPを実践するためには苦労もありますが、J A おおいたでは85%の農家が経営改善されたと感じていました。農家からは「整理整頓したこと作業効率が上がった」、「農薬管理がきちんとできるようになり、農薬事故がなくなった」、「在庫の管理によつて、農薬や資材を余分に買いすぎることがなくなった」との声が聞かれ、GAPを続ける意向です。

さらに、J A おおいたでは取組の輪が広がっており、部会数も増加傾向にあります。

おわりに

J A 高知県果れいほく営農経済センターいほく園芸部(仮称)ではGAPに取り組み始めたばかりで、慣れない部分が多いと思います。

困った時や要望がある時には、J A や普及所に相談していただき、嶺北のGAPを少しずつ良いものにしていきます。